

# 「政治変動の比較政治思想史的研究」班

## 中間報告

高野清弘

(法学部助教授)

本班は、天安門事件やペレストロイカ等に見られるように世界的規模で政治変動が頻発していることに鑑み、これを、近代社会形成に大きな役割を担った、イギリス革命（ピューリタン革命・名誉革命）、フランス革命さらには、社会主義を始めて成立せしめたロシア革命との比較研究において、その本質を把握し、あわせて世界政治の動向を理解することをめざして、研究を開始した。

本年度は、各研究員が、それぞれ各自の専攻分野における研究を進展させることをめざした。イギリスを主たる研究分野とする班員からは、革命下の政治的動向と関連したものとして革命期に登場した近代政治原理をとらえかえそうとする研究に着手したとの報告を受け、また、フランスを研究対象とする班員からは、1989年がフランス革命二百年にあたることから、パリなどにおいて、それを記念する学会がもたれ、それに出席したこと、また、そのことを契機に長足の進歩を示した、フランス革命研究の動向について報告を受けた。また、他の分野についても同様の研究がなされている。尚、いささか本年度は努力が不足したが図書の整備にもある程度の成果を挙げた。